

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」のプライドを持ち行動する学校

- 1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人一人の希望を叶える進路を実現する
- 2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う
- 3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を構築する
- 4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」をより確かなものとする

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現

(1) 希望の進路の実現に向け、教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む学校をめざす。

ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに、生徒の自学自習の促進を図る。

イ 授業における ICT の活用を進め、視覚化、情報活用による授業効果を定着させる。

※ 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる授業満足度、平成 27 年度は、「授業はわかりやすい」70.7%、「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」73.2%、「先生の評価は適切だと思う」86.3%、平成 30 年度には、いずれも 85%以上にする。

(2) 3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、進路実績を向上させる。

ア 1、2年次から進学講習（専門学校・公務員・就職）を実施することで、早期の目標設定につなげる。

イ 進路決定まで、学年進行に合わせて、基礎学力調査における判定を、各々 1 ランク向上させる。

ウ 大学等との連携や補習、自習室活用の拡充により、難関大学の進学実績を向上させる。

※ 1、2年次 9 月実施の基礎学力調査・学習到達度 B ゾーン以上（27 年度 34%）を、平成 30 年度には平均で 45%以上にする。

※ 国公立・難関私立大学の合格者数を、平成 27 年度 22 人を、平成 30 年度には 30 人以上に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成 27 年度 58 人を平成 30 年度には 90 人以上にする。

2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う

(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む。

ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する。

イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む。

ウ 「部活動」の活性化により、学校生活をより充実したものにし、その活動を通して、公共心を育む。

※ 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 27 年度における満足度「文化祭・体育祭」86.3%、「生徒会活動」86.0%、「部活動」83.5%を、すべて 100%に近づける。

3 「地域連携」を核に、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を構築する

(1) 支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深める。

ア 藤井寺支援学校との交流活動を拡充し、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムの構築について理解する。

(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充する。「地域に根ざした、進学したい学校 No. 1」をより確かなものとする。

ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を形づくる。

イ PTA、同窓会の協力の下、海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ、交流も充実させる。

(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する。

ア HP の改善と並行して、HP の全面リニューアルを計画し、情報発信を強化する。

イ 「体験入学」、「学校説明会」について、ICT を活用し、視覚的に「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝える内容に改善する。

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかったと言える学校」をより確かなものとする

(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る。

ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、一人一人の生徒支援の充実を図る。

イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底を図る。

(2) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る。

ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・今年度は、「生徒が主体的に授業に取り組む」、「教科横断の授業研究システムの構築」、「授業における ICT 活用の促進」に取り組んだ。「自ら学ぶこと」を定着させるために、家庭学習時間の増加を図り、事前学習となる「宿題」を増やすことや、発表の事前準備等を授業に取り入れた。</p> <p>◇生徒アンケート</p> <p>生徒の学校教育自己診断の結果を学年進行で見ると、14 項目で向上しており、全項目の平均は、[昨年 69.3%→今年 72.3%] となった。学習指導に係る 9 項目では、特に 3 年生では全てにおいて向上しており、授業改善の効果が徐々にであるが、表れてきている。ICT の活用を示す「教</p>	<p>第 1 回（平成 28 年 6 月 17 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は安全・安心が第一。藤井寺高校は保護者が安心して送り出せる学校。 ・数値での結果の提示も継続して行う。昨年度の数値目標はほぼ達成している。 ・藤高は、間違いなく前に進んでいる。 ・個性を重視する社会の中で「普通科」と言える潔さ。 ・教師だけでなく、生徒をはじめ学校に関わる人全てが学校を作り上げている学校。 ・提案があれば相談の上、全力でサポートする。 ・藤井寺高校の生徒の姿を見て、中学生は藤井寺高校を志望している。 ・進学は将来への通過点。5 年後、10 年後を見据えた支援を期待する。 ・中高連携で「生きる力」を明確に。

府立藤井寺高等学校

材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある。」は、〔昨年 73.2%〕から〔81.2%〕と大幅に向上した。同教育自己診断の教職員の結果においても「各教科で教材の精選や工夫を行っている。」〔92.5%〕、「生徒の実態をよく考え、指導方法の工夫や改善を行っている。」〔96.1%〕となっており、授業改善に向けた高い意識・意欲を表している。また、昨年度最低であった「集会での話はわかりやすく、為になる。」は、〔47.3%〕から〔54.0%〕に改善しており、教職員の「教職員は生徒の意見をよく聞いている。」〔98.1%〕にあるように、生徒に寄り添った指導が効果を発揮している。

◇保護者アンケート

全 20 項目の中で、全学年の平均が、昨年度に比べて向上したものは 8 項目、残り 12 項目は、ほぼ横ばいであった。昨年度の課題であった「子どもが悩みを相談できる先生がいる」は、〔53.3%〕から〔53.5%〕と横ばいであるが、年次進行で見ると、今年度 3 年生〔2 年次 44%→58.8%〕、今年度 2 年生〔1 年次 48.6%→57.8%〕と大きく改善できている。同様に「学校は保護者の相談に適切に応じている」は、〔72.6%→76.6%〕に改善できた。教職員の結果における「生徒指導において、学校と家庭の連携が出来ている。」〔94.2%〕が示すように、家庭・保護者との連携の改善が進んでいる。

「学校の施設・設備には満足している」は、今年度の質問から「ほぼ」を削除したが〔59.1%〕から〔57.5%〕と、若干低下した。築後 40 年以上が経過し、校舎全体の老朽化がかなりの箇所で行進中。中でも「トイレの改善」の要望が最も強く、早急な対応が望まれるところである。

◇教職員アンケート

全 20 項目の中で、17 項目が 8 割以上、2 項目が 7 割 5 分以上の肯定度となった。昨年度の課題であった「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は〔63.6%〕から〔76.9%〕に、「校長は自らの教育理念や学校運営に対する考えを明らかにしている」は〔68.1%〕から〔90.6%〕に、「各種会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として機能している」は、〔62.2%〕から〔79.6%〕に改善できた。

教職員全体が、「学校経営計画」のもと、「めざす学校像」を理解し、日々の教育活動を推進している。

- ・小学生が体育祭の応援合戦を見学し、感動していた。
- ・藤井寺高校の生徒による、放課後の交流ボランティア活動と学習支援ボランティア活動に、小学生はとても喜んで積極的に参加している。
- ・生徒主体と若手教員が頑張る風潮は創設当初からあるよき校風。
- ・「互いに違いを認め合う」ことを継続して行ってほしい。
- ・ICTを使って授業をすることが目的ではなく、授業の内容の充実が目的である。
- ・藤井寺高校には、数値化できない良さもたくさんある。

第 2 回（平成 28 年 10 月 28 日）

- ・入部率が 60% 程度であるが、外部の活動で、空手やダンスなど習っている者もいる。新たなサークル活動も出てきているので、さらなる部活動の活性化を期待する。
- ・海外研修（ホームステイ研修）が募集定員 20 人をオーバーしているのは良いこと。今後も海外へ興味があり、意欲のある生徒を育ててほしい。
- ・生活指導における懲戒が今年度 0 件は、日頃の細やかな指導によるものである。
- ・体験入学の参加人数が増えている。選抜試験がほぼ一本化されたことで、説明会に参加する保護者も増え、本校への期待が上がっている。
- ・今年度のセンター入試受験者が昨年度より若干減った。すでに、A0 入試、推薦入試で、100 名以上が合格していることと関連している。
- ・自転車について、生徒の自転車保険加入率は 100% である。事故の相手を補償する保険は、学校単位で加入し、全校生徒が加入しているのは良い。
- ・地域の者から見て、朝の通学路に立ってあいさつをする中で、藤井寺高校の生徒の自転車マナーの向上を感じる。
- ・プロジェクターの授業での使用率は高く、教員の個々人の授業スタイルや授業内容により使用しているのは良い。今後は、生徒もプロジェクターを活用するような内容を期待する。
- ・藤井寺北小学校でのボランティアは、学習ボランティアと放課後に小学生と一緒に遊ぶボランティアとの二種類があり、小学生と高校生の交流により相乗効果が得られる。
- ・クリーンアップキャンペーンは、部活動単位で希望し、昨年度は 27 部活動中、24 部活動が参加した。今年度は、さらに希望者が多く、約 330 名の生徒が参加する予定。このように多くの生徒が参加することに驚いている。
- ・フェス文は外部から 700 名程度の参加があった。次年度も盛況を期待する。
- ・地域から学校に向けて、今後も要望や相談もお願いしたい。

第 3 回（平成 29 年 2 月 22 日）

- ・スクールカウンセラーの活用は？ 年間で 10 回来校していただいている。常駐していただくのは難しいので、希望制で面談を行っている。基本的には、初めは保健室で養護教諭が対応し、その後スクールカウンセラーにつないでいる。
- ・センター試験受験者は何人くらいいるのか？ 今年度は 22 人。減少した理由として、指定校推薦で合格した生徒が受けなかったことがある。
- ・進路未定者については、進学先卒業時の取得資格や就職率の高さなどを重視して進路指導を行っている。
- ・生徒と保護者の学校教育自己診断アンケートより、教員側から見て意外な数字はありますか？ 学校設備改善希望の数字が高かったこと。授業途中にトイレに行く生徒が近頃多いように感じるの、現在洋式便器が各トイレに 1 つしかなく、休み時間に行けないことが影響しているのではないかと。トイレの改修が望まれる。
- ・中学校ではトイレの改修工事が終わっているのか？ 羽曳野では河原城中学校以外の中学校は終わっている模様。
- ・他に学校教育自己診断アンケートより、教員側から見て意外な数字はありますか？ 学校のホームページやメールサービスの利用率が高くなっていること。
- ・学校教育自己診断アンケートの中で、不満があるのは設備についてのみで、総合的に見て向上していると感じる。
- ・藤井寺北小学校での放課後ボランティア活動を通して、藤井寺高校に憧れを持っている児童も多数いる。これからも積極的に参加してほしい。
- ・「学校に行くのが楽しい」と藤井寺高校の生徒の約 80% が答えているのは素晴らしい。また、「今のクラスに友達がいる」と答えた生徒が約 93% いることも素晴らしい。これらは日頃の指導の成果であり、生徒が安心して学校生活を送れているということを表しているのではないかと。安心して子ども預けられる学校だと感じている。
- ・吹奏楽部の地域での活動を楽しみにしている。
- ・「授業がわかりやすい」などの肯定的な意見が多いのは、教員が前向きに一致団結している結果である。今後も気を緩めず頑張ってもらいたい。

府立藤井寺高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、希望を叶える進路の実現	<p>(1) 希望の進路の実現に向けた、教員の指導力の向上、生徒が主体的に授業に取り組む工夫</p> <p>ア 「普通科」における教科横断の授業研究のシステムの構築</p> <p>イ 授業における ICT の活用の促進</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実</p> <p>ア 1、2年次からの進学講習の実施</p> <p>イ 基礎学力調査における判定の向上</p> <p>ウ 自習室活用の拡充</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「授業アンケート」を基に、重点となる教科・科目を確定し、改善のための「普通科」における教科横断型授業研究のシステムを構築していく。同時に、教育センター等と連携し、核となる教員を養成する。 授業の取組について、外部機関の知識や考え方を取り入れる。</p> <p>イ 全学年のHR教室に設置したプロジェクトを活用した授業を展開する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 1年次から進路講習を定着させ、学習習慣を確立させる。</p> <p>イ 進路決定まで学年進行に合わせて、基礎学力調査判定を向上させる。</p> <p>ウ 日々の自習室の活用を促進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる「授業はわかりやすい」 〔75%以上〕 (H27 70.7%) 外部機関による研修を1回以上実施する。</p> <p>イ 同アンケートによる「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」 〔80%以上〕 (H27 73.2%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 同アンケートによる「進路や職業について適切な指導を受けられる」 〔85%以上〕 (H27 82.0%)</p> <p>イ 各学年で実施する基礎学力調査学習到達度Bゾーン以上の生徒の割合を平成28年度には〔40%〕にする。 (H27 34%) 国公立・難関私立大学の合格者数を、平成27年度22人を、平成28年度には25人以上に、それに準じる有名私立大学合格者数、平成27年度58人を平成28年度には70人に近づける。</p>	<p>(1)</p> <p>アについては、「生徒が主体的に授業に取り組む」をめざしたことにより、「授業はわかりやすい」は、〔63.9%〕となり、昨年度より7%下回った。ただし、各学年進行の評価は（3年生：2年次 62.5%→63.9%）（2年生：1年次 64.9%→67.8%）向上しており、次年度以降も引き続き「自ら学ぶ態度」の育成に取り組むたい。（△） 外部機関による研修については、教育センターと連携した10年研課題研究として、教員向けPC活用研修を3回実施した。 イのICTの活用については、「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」が〔81.2%〕となり、前年を大幅に超え、8%向上した。（◎）今後も、ICTの活用を学力向上につなげていきたい。</p> <p>(2)</p> <p>3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実については、1年次よりの取組を進めた。 ア「進路や職業について適切な指導を受けられる」が〔78.1%〕となり、昨年度より4%下回った。次年度は、さらに全学年で改善に取り組むたい。（△） イの基礎学力調査学習到達度Bゾーン以上の生徒の割合は、昨年より1.6%向上し、〔35.6%〕で目標に近づいた。（△） 国公立・難関私立大学の合格者数は、16人に、それに準じる有名私立大学合格者数は、21人となり、減少した。（△）多様な進路をめざし、近隣の堅実な大学に分散した結果である。</p>
2 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに、公共心を養う	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力の育成</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部を中心に組織の企画・運営の力の育成、及び生徒リーダーの養成</p> <p>イ 文化的行事において、生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」の育成</p> <p>ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育的行事において、生徒会部を中心に3年学年団により生徒のリーダー集団を育成し、そのリーダー集団を中心に、企画から1、2年を巻き込んだ組織運営に取り組ませる。</p> <p>イ 文化的行事において、クラス単位での企画・運営の中で、クラスの協力体制や責任感の大切さを体験させる。</p> <p>ウ 新入生へ全員の入部促進を図り、「部活動」の活性化につなげる。また、活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <p>イ 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」 〔90%〕 (H27 86.3%) 同アンケートによる「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会はよく活動している」 〔90%〕 (H27 86.0%)</p> <p>ウ 同アンケートによる「本校は部活動が盛んである」 〔90%〕 (H27 83.5%)</p>	<p>(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」について、ア・イの「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」は、〔87.3%〕で、1.1%向上し、概ね指標を達成した。（◎） 「新入生歓迎会や学校説明会、各行事において生徒会はよく活動している」は、〔83.9%〕となり、昨年度を2%下回った。（△） ウの「本校は部活動が盛んである」は、〔83.1%〕となり、昨年度を0.4%下回ったが、今後部活動になるで、新たな2つのサークル活動が進んでいる。（△） 各行事において、生会部を中心に生徒が組織の企画・運営を行うとともに、今年度は、「学校説明会」でも90%以上を生徒の力で実施することができ、「協働する態度」、「責任感」を育成することができた。 また、研修旅行（修学旅行）では、通常の行動における「公共心」について、周りから高い評価を得た。</p>

府立藤井寺高等学校

<p>3 「地域連携」を核に、支援学校、海外の学校や外部機関との連携も進め、地域に根ざした「チーム藤高（ふじたか）」を構築する</p>	<p>(1) 支援学校との連携、インクルーシブ教育システムの構築についての理解 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解</p> <p>(2) 「地域連携」を核に、生徒が主体的に取り組む交流活動の充実 「地域に根ざした、進学したい学校 No. 1」 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「チーム藤高（ふじたか）」の形成 イ 海外研修の継続・充実、短期留学生の受け入れ等、交流の充実</p> <p>(3) 「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動の展開 ア HP の改善と情報発信 イ 「体験入学」、「学校説明会」の改善</p>	<p>(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を継承し、その広報活動を行う。校内において、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深める。</p> <p>(2) ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の拡充を図る。特に、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と、新たに「授業研究」の連携を行う。 イ 海外研修をオーストラリアからニュージーランドに変更し、内容の充実を図る。藤井寺市と連携した短期留学生の受け入れも行き、学校全体で交流を行う。</p> <p>(3) ア HP の改善を進める。「藤高（ふじたか）ブログ」の作成、タイムリーな更新とともに、全面リニューアルに向けて計画を進める。 イ 「体験入学」、「学校説明会」について、ICTを活用し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝える。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 〔85%以上〕 (H27 82.6%)</p> <p>(2) ア 同アンケートによる「PTA や地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」 〔80%以上〕 (H27 77%) 平成 28 年度、「放課後学習支援」を 30 日以上、相互の「授業研究会」を 1 回以上実施する。 イ 同アンケートによる「本校は国際交流活動に力を入れている」 〔80%以上〕 (H27 75.9%)</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断の保護者向けアンケートによる「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている」 〔70%〕 (H27 64.1%)</p>	<p>1)アの「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」は、〔82.2%〕となり、昨年度を 0.4% 下回ったが、各学年進行の評価は、(3 年生：2 年次 71.5%→78.4%) 大幅に向上し、(2 年生：1 年次 87.2%→85.6%) 若干低下しているが、人権教育への理解が進んでいる。(△)</p> <p>(2)の地域活動については、「PTA や地域、近隣の学校(支援学校や北小)との交流をしている」は、〔78.6%〕となり、1.6% 向上し、概ね指標を達成した。次年度は、さらに交流の充実を図っていく。(○)</p> <p>「放課後学習支援」等も 30 日程度実施し、吹奏楽部の活動も加わった。相互の「授業研究会」は、進行中。(○)</p> <p>イの「本校は国際交流活動に力を入れている」は、〔78.5%〕となり、1.6% 向上し、概ね指標を達成した。次年度は、さらに内容の充実を図っていく。(○)</p> <p>(3) アの「学校の教育方針や教育情報はわかりやすく伝わっている」は、〔67.2%〕となり、3.1% 向上し、概ね指標を達成した。次年度は、さらにタイムリーな情報発信を進めていく。(○)</p>
<p>4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、「入学してよかった」と言える学校」をより確かなものとする。</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 一人一人の生徒支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底</p>	<p>(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、学年と部活動の連携、保護者との連携を深め、生徒支援体制の改善を図る。 イ 生徒の通学手段の 95% が自転車利用であり、交通安全指導の徹底を図る。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる「悩みを相談できる先生がいる」 〔60%〕 (H27 53.4%) 同、保護者向けアンケートによる「子どもが悩みを相談できる先生がいる」 〔60%〕 (H27 53.3%)</p> <p>イ 学校教育自己診断の生徒向けアンケートによる「学校での生活について、先生の指導は適切である」 〔80%〕 (H27 77.3%) 平成 28 年度、自転車安全運転講習会を 1 回、安全運転に関する講義を各学期に実施するとともに、啓発ポスターを作成する。</p>	<p>1)アの「悩みを相談できる先生がいる」は、〔49.8%〕となり、3.6% 減少したが、各学年進行の評価は (3 年生：2 年次 40.5%→44.3%) (2 年生：1 年次 49.6%→59.7%) と改善している。同、保護者向け回答「子どもが悩みを相談できる先生がいる」も〔53.5%〕と横ばいであるが、各学年進行の評価は (3 年生：2 年次 44.0%→58.8%) (2 年生：1 年次 48.6%→57.8%) と大幅に改善している。次年度以降も引き続き相談体制の充実に取り組んでいく。(△)</p> <p>イの「学校での生活について、先生の指導は適切である」は、〔72.9%〕と 4.4% と減少したが、学年進行では横ばいであり、次年度以降も、引き続き生徒に寄り添った指導をしていく。(△)</p> <p>自転車安全運転に関しては、講習会、安全運転に関する講義等の実施により、地域からもマナーが向上したという声をいただいた。</p>